

令和4年5月31日

前橋市長 山本 龍 様

前 橋 高 志 会  
幹 事 長 笠 原 久

## 原材料価格の高騰と出荷価格の低迷に苦しむ農業者への支援に関する要望書

本市の基幹産業の一つである農業を取り巻く環境は未だかつてない厳しい状況となっています。

従前から値上がり傾向が続いていた輸入飼料の価格は、ロシアによるウクライナ侵攻を受け、国際的な飼料争奪戦の状況を呈している中、数十年來の円安と海運価格の上昇が加わり、配合飼料の価格は2年前を基準として約1.5倍もの値上がりとなっています。

鶏、豚、牛などの畜産物は自ら価格を設定することが出来ず、市場価格に委ねざるを得ない状況から、これらの原材料価格の上昇を出荷価格に転嫁することも出来ない状況なのです。

殊にCSF（豚熱）の発生によるワクチン接種費用の負担を余儀なくされている養豚農家においては、1頭あたりの出荷価格が生産費を大きく下回る状況となっており、内部留保の切り崩しでどうにか持ちこたえている消耗戦となっているのが現状です。

このままの状況が続けば、やがて内部留保は枯渇し、養豚業者の廃業が多発する事態が予測されますので早急な支援策が必要と考えます。

また、同様の理由から肥料価格の高騰も起きており、一説によると9月には従前比較で1.7倍になるとも言われております。

今年の新規就農者の多くが露地栽培であることから、希望に満ちた新規就農者の出鼻をくじくことがないように、肥料高騰対策も喫緊の課題であると考えます。

さらには、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延による外出抑制によって外食産業は壊滅的な打撃を受けており、それに伴う米の消費量激減から米の出荷価格は低迷を続けております。

米作農家も今の出荷価格では生産費が出荷価格を上回ることとなり、このままの状況が続けばやはり廃業する農家が出現することが考えられます。

今現在は、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は落ち着いている感はありますが、「コロナ以前」に戻るには相当な時間がかかるものと思われ、早急な支援策が必要であると考えますので、下記事項について要望させていただきます。

### 記

1. 群馬県と連携を図りながら畜産農家における赤字の解消を図る支援策を講じられたい。
2. 肥料価格高騰に対する支援策を講じられたい。
3. 米作農家における赤字の解消を図る支援策を講じられたい。